

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H1102038
	②		福祉	H2001037
	③		経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	東蒲田保育園			
事業所連絡先	〒	144-0031		
	所在地	東京都大田区東蒲田2丁目32番15号		
	TEL	03-3731-4115		
事業所代表者氏名	廣永 明子			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 10月 23日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 10月 23日			
訪問調査日	2023年 10月 30日			
評価合議日	2023年 10月 30日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。</p> <p>・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。</p> <p>・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。</p> <p>・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。</p>			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 28日

事業者代表者氏名

廣永 明子

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「愛を生むは愛のみ」の精神のもと、一人ひとりのこどもの思いを受け止め、全職員で全園児を保育します 2)こどもたちが生まれた時から持っている「育つ力」を安全と信頼に満ちた環境で、愛情を持って支援します 3)こどもの最善の利益を尊重し、心身ともに健康で友だちとよく遊べるこどもを育てます 4)自分の思いや考えを言え、仲間を大切にし、豊かなこころを持った子を育みます 5)ビジョンハーツの職員としての理念や心を持ち、こどものそばにいるにふさわしい人である事を目指します</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>①安全を優先し、プロとしての責任を果たす ②一人ひとりの個性を大切にし、心身の成長に真剣に向き合う ③相手に伝わるコミュニケーションを実践 ④チームで目的を共有し、自分自身の役割の責任を持って果たす ⑤ホスピタリティマインドを持って行動する ⑥信頼という絆を深めるために、誠実な心を持ち続ける ⑦向上心を持って日々学ぶ ⑧チームワークとルールを大切にすること ⑨心身ともに健康であること</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>こどもの成長のそばにいるにふさわしい人として、その役割を果たせる人。「こどものために」を第一に子どもの輝いている姿を見つけられる人。</p>

調査対象

2023年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 102世帯(利用者総数 113名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担当が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

113

102

102

79

77.5

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(90%、71人)となっている。

- 各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。
- 問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
(97%、77人)
- 問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(96%、76人)
- 問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか
(90%、71人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	76	3	0	0
<p>ボディペインティングや英語など自宅ではできない体験をさせてもらえるのは心身の発達に役立つと思います。先生や友達など様々な方と交流していること、自宅では経験していない遊びができること、食事や着替えなどの身の回りのことの練習など、複数の面で心身発達に役立っていると思います。</p> <p>楽しかったと毎日話してくれます。色々なことがゆっくりですが成長してくれています。</p> <p>などの意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	77	2	0	0
<p>基本的な挨拶などのしつけの部分は家庭だけでは行き届かない部分もフォローしてくださっていると感じています。</p> <p>家で行えない活動を数多く実施していただき、手先が器用になっていたり体感が強くなっていると感じる。</p> <p>保育園で行ったことを毎日楽しそうに話してくれます。</p> <p>などの意見があった。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	68	8	3	0
<p>毎日いろいろな食材を使っただきありがとうございます。</p> <p>特に好きな食べ物のあるようで、楽しみにしています。</p> <p>ママのご飯より美味しい。ママは給食食べられなくて可哀想と言われます(笑) 幸せな食生活が送れているようで羨ましい限りです。</p> <p>などの意見があった。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	63	13	3	0
<p>まだ行事は行っていない月齢です。公園や散歩をする際は、様々なものに興味を持って楽しめてるようです。気温を考慮した上で、可能な範囲で外出して頂いています。子供は季節を感じたことをよく話してくれます。ここ数年コロナで限られていることが多かったですが、そんな中でも工夫して関わりを作って下さったと思っています。などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	60	10	1	8
<p>とても柔軟に対応くださっているので助かっております。当日にお伝えすることもあるが受け入れてくださり感謝しています。急な残業が多かったのですが、嫌な顔をせず柔軟に対応してくださって心から感謝しています。などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	59	15	5	0
<p>特記すべき意見なし。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	19	10	1
<p>年間行事予定を年度はじめにもらえるので良い。と言った意見があった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	61	12	6	0
<p>園での様子を伝えてくれたり、気になることを話すと耳を傾けてくれ、注視してくれます。どの先生も一丸となって全ての子供達を保育してくださっているように思います。育休中にもわからず、1人で悩んで不安でしたが 保育園に通いはじめて職員たちが心配して声をかけてくださったりまた、栄養士さんとお話する時間を設けてくれたりと 凄く感謝の気持ちでいっぱいです。もちろん、安心して仕事にも行けます。などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	71	8	0	0
<p>特記すべき意見なし。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	66	10	3	0
<p>問題になるような発言・態度はない。態度など特に問題と想ったことはない。服装も自由で良いと思う。などの意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	70	7	2	0
口を切った時に、即座に病院に連れていってくれて安心した。 発熱の際に時系列で変化を教えていただけなので助かっている。 少しの体調不良は、様子を見てくれた後に連絡を下さる。また、ケガがあった時は迎える時に口頭で報告してくれるのは安心できる。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	55	19	1	4
柔軟に対応してくれていると思いたいです。 気持ちに寄り添い、根気よく付き合ってください。ありがとうございます。 などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	69	9	1	0
先生を慕っている。 子供の自主性を重んじてくれながら、社会のルールもしっかり教えてくれます。 最後まで関わって下さっています。ありがとうございます。 などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	65	7	1	6
特記すべき意見なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	66	8	4	1
簡潔でわかりやすく、適切だと思います。 保護者会やお便りで説明がある。もし分からない場合、口頭で聞くと説明してもらえる。 などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	62	11	3	3
とても丁寧に説明をしてくれて、安心する。 それぞれ異なる事情を把握した上で、よく対応して頂いていると感じています。 外遊びや身体を動かす遊びを増やしてほしいと伝えたところ、すぐにホールで遊んだりしてもらえた。 などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	39	23	10	7
お知らせが常に掲示してあります。 と言った意見があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	基本理念、ビジョン等は、様々な手法で職員や保護者へ周知している 基本理念、ビジョン等は、法人が作成する「ハートナーブランドブック」に詳しく記載され、毎年職員全員に配付し周知している。また、このブックには、基本理念、ビジョンにくわえ、このビジョンを体現する人である職員の姿勢も併せて明示されている。さらに、法人本部が全職員に対し年1回研修を実施し基本理念等を周知し、法人傘下の各園は統一した知識、意識のもと保育を実施している。また、保護者へは「重要事項説明書」や「入園のしおり」を活用し、年2回の各クラスの保護者会や保護者面談等にて保護者へ園長から説明し周知している。	
	園長のリーダーシップのもと、4人会にて園の取り組みや方向性を確認し示している 園長及び各職員の役割や責任については、「職務分掌」が作成され明確にされ、園長以下各職員はそれにもとづき日々の保育活動等を行っている。また、園長のリーダーシップのもと月2回の4人会(園長・主任・乳児エリアリーダー・幼児エリアリーダーで構成)を開催し、園の取り組みや大事にしたいことの方角性を確認し、園の目指していることを示し、乳幼児リーダー会・リーダー会・職員会議等にて周知し、職員全員が同じ思いを持ち保育を進めることができるように努めている。	
	重要な案件について、定められた手法にて職員や保護者に周知している 4人会・乳幼児リーダー会・リーダー会等で、重要な案件等の問題提起や検討が行われ、職員会議で意思決定がなされている。決定内容や経緯等は、職員会議での報告や会議録の確認等にて、会議不参加者を含め職員全員に周知している。また、非常勤職員には、口頭による伝達や引き継ぎ簿の確認で周知がなされている。給食会議では、園長、栄養士、担任1名、調理員が、行事食、調理室の環境について検討や決定をしている。保護者には、園だより・クラスだより・ほげんだより・給食だより等の掲示、配付や口頭による伝達等により、周知に努めている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>行事後に保護者アンケートを実施し保護者の意向を把握し、運営の改善に活かしている。</p> <p>保育参観、保護者会、運動会、生活発表会等の行事後に保護者アンケートを実施し保護者の意向を把握している。アンケートに記載された保護者の意見や要望をクラスの打ち合わせで確認し、4人会やリーダー会で今後の運営に活かすように話し合い改善等を検討し、決定事項を職員会議にて職員に周知している。同時に保護者の要望により変更になった事項は、園だよりや園内掲示等にて伝達している。また、職員が抱えている課題や意向は各会議に加え、園長や主任が面談を行い把握して検討を行い対応している。</p> <p>各種会議に参加し地域の福祉ニーズを収集し、職員間での共有化に努めている</p> <p>園長は区立園長会や地域保育施設連携協議会等に出席し、区全体や地域各園の状況を把握し、地域の福祉ニーズに関する情報を得ている。得た情報は必要に応じて職員会議やリーダー会にて職員間での共有化に努めている。また、参加している区の園長研修では質の高い保育を提供するため各園が抱えていることや職員の育成等事例を挙げ検討している。当園では、この研修で検討したことを職員の仕事量に差が生じないよう園全体で協力できる体制とソフトづくりをする際に活かすことができている。</p> <p>園で中長期計画と年度計画を策定し、課題・目標を設定し取り組んでいる</p> <p>区、法人の意向に基づき園の課題を踏まえて中長期計画を作成している。中長期計画では、課題・目標(何のために)、施策・方策(どうやって)、達成水準(何をどこまで)、成果物(達成検証物)といった定性目標をたて、進捗(確認・評価)を随時確認し、各年度末に進捗状況からの振り返りを行っている。4月に着任した園長が新たに作成した3年計画であり、園運営を実践してどうだったかを振り返り、必要があれば次年度計画を見直すことを期待したい。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

確認テストを行うなど様々な手法にて、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる
法人における倫理等の考え方は、職員全員に毎年配付される冊子(ハートナーブランドブック)に記載されている。入社時及び毎年コンプライアンス(法令遵守)や個人情報に関する研修を常勤職員全員が受講している。その結果正しく理解できたかどうかの確認テストも実施している。非常勤職員にも同じ内容の研修を園内で行い、確認テストも実施している。また、人権擁護のためのセルフチェックリスト(全国保育士会発行)に基づき作成した「職員の姿勢チェック表」にてセルフチェックを毎期行い、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる。

引き続き、園以外の相談先の周知を行うことを期待したい

園の苦情窓口は、区には福祉オンブズマン、園には受付窓口である主任、解決担当者である園長、第三者委員である地区の民生委員兼児童委員など、多様な窓口を用意し、重要事項説明書等に記載して保護者に説明しているが、利用者調査の結果からみると、園以外の相談窓口の周知がほぼ前回並みの回答となっており、相談先を十分理解していない保護者が存在する。引き続き、園以外の相談先の周知を図ることを期待したい。

育児応援券やペンギンルームの利用者増による地域全体の子育て支援の貢献を期待したい

看護師や栄養士が常駐していることから見学者等には子育て相談等が好評であるが、コロナ禍で中止していたこともあり、区の「育児応援券」(妊娠中の方及び在宅で3歳までの乳幼児を子育て中の方がする園で親子一緒に遊んだり、育児相談や給食の無料試食の体験をする)や子育て支援の「ペンギンルーム」の利用者が少ない状況にある。ホームページやチラシの配布等で情報発信を強化することにより利用者を増加させ、地域全体の子育て支援にさらに貢献することを期待したい。なお、ホームページの掲載は次年度に向けて変更する事となっている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>災害発生時には各職員が迅速適切に対応できるよう努めている</p> <p>区所定の様式で、園の業務継続計画(BCP)を作成して周知職員室に備え付け、常に職員が確認できるようにしていることに加え、地震・火災・水害(台風)の発生に分け、誰が(園長・主任・看護師・栄養士・調理)、何を(園内で、園外で)をするかを定め、1枚のフローチャートにまとめ職員室に掲示し、災害時に迅速且つ適切に対応できるようにしている。また、各クラスの部屋の天井にはセーフティゾーン(落下物がなく比較的安全な場所)の表示し、地震発生時にはその天井の下に子どもを誘導することを徹底するなど、災害発生に備えている。</p> <p>毎月、危機管理委員会を開催し、ヒヤリハットについての検討をしている</p> <p>園では、事故やヒヤリハット案件があった場合、クラス内で原因や対策の検討を行った上で職員会議にて報告している。また、毎月の危機管理委員会でヒヤリハットについての検討をしている。各クラスのヒヤリハットについて回覧し対策への気付きを記入している。職員会議にて報告をし再発防止に努めている。また、嘔吐処理については、シーズンになる前に看護師による園内研修を行うことで、職員間で手順を確認しているとともに、嘔吐処理キッドを各クラスに配置している。</p> <p>個人情報の取扱いについて、保護者や職員等に説明し同意書をもっている</p> <p>区のプライバシーポリシーが記載されている「個人情報について」を入園の際に配布し、利用目的を保護者に確認していただき、同意書をもっている。また、同内容を玄関に掲示している。開示請求については「プライバシーポリシー」に明記され掲示している。職員は入社時に個人情報に関する同意書もらい、入社時及び年に1回、個人情報保護についての本部研修を受け理解を深めている。実習生やボランティアには事前の打ち合わせ時に書面を提示し説明のうえ同意書をもっている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

様々な工夫をして、基本理念等を共有できると思われる者を採用するように努めている

法人が書類選考、面接、筆記試験等にて採用し、傘下の各園の意向を確認し配属している。法人のホームページには採用に関する情報を詳しく掲載し、待遇等の情報だけでなく、先輩職員の体験談等も掲載するなど、採用のための工夫を行っている。また、就職希望学生の園見学を行い、実際の仕事を見てもらったり、若手職員と座談会を行っている。職員は本部と共に求人会社のイベントに参加して、仕事内容の紹介するなど、基本理念やビジョンを共有できると思われる者をできるだけ採用するように努めている。

キャリアパスや人事システムを周知し、職務を継続する意欲の向上に繋がりたい

法人として、キャリアパスを作成し必要となるスキルの水準を明記し目指したい姿がわかり、職務の継続につながるようになっている。また、個人評価シートを園長・本部で評価し、育成、評価、報酬が連動した人事システムが構築され職員の意欲向上に取り組んでいる。ただし、「求める人材像に基づく人材の育成や定着化に向けた職員の意欲向上などの園の取り組み」については浸透するには時間を要する。新たに採用された職員が多いことから、さらなる意欲向上のため周知に努められたい。

入職時からの研修計画・実施状況管理を体系的に行い、スキルアップに繋がりたい

法人・都・区主催等の外部研修に参加し研修会後職員会議での報告や園内研修によって職員間で共有し、子どもたちの保育活動や日々の取り組みに反映している。また、希望する研修を把握し各職員に合わせて研修を計画、参加しやすいようにシフト等配慮している。ただし、法人及び園では職員ごとの入職後に受講した研修実績の管理がなされていない。担当業務・勤続年数・職位等に応じた必要なスキル取得のための研修計画や受講実績の管理を一貫して行い、「今期は、来期は」といった各職員の研修計画を作成しスキルアップを体系的に繋げるよう期待したい。

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 ・子どもの発達にあった支援の目安が経験や個人の学びにより異なるため、「乳児保育を園全体で学び子どもたちの育ちを支えていく、発達にあった環境設定を充実する」を目標として設定した。 【取り組み】 ・年間を通して講師を招き、乳児の担当制保育や環境設定を園全体で学んだ。 ・職員がチームを作り、生活や遊びの発達段階にあわせた保育士の配慮をまとめた「スタンダード」を1年かけて見直した。 【取り組みの結果】 ・乳児クラスでの担当制保育で、一人ひとりがしっかり保育に向き合う環境が整い、クラス内での課題を話し合い共有できた。 ・外部講師による全員研修で子どもたちの作品の掲示の仕方や室内環境を学び、子どもたちの遊び方も変わり落ち着いた環境で一人ひとりの遊びができています。 ・「スタンダード」の見直しで、子どもたちの発達を段階的に捉え支援し、連続性に配慮した保育ができています。 ・職員の学ぶ機会が増え、保育力向上の意識が高まり、子どもたちによりよい保育が提供できてきています。 【振り返り 今後の方向性】 ・どの時期にどのように担当制を活かした保育をするかを検討し継続 ・園内研修を充実し「スタンダード」を活かした保育を推進	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 ・目標は、園の目標の一部である「一人ひとりの子どもを大切に、発達にあった働きかけを行い」を実現させるために必要で、設定は適切である。 ・①年間を通しての外部講師による乳児の担当制保育や環境設定の園全体で学び、及び②職員チームでの生活や遊びの発達段階にあわせた保育士の配慮をまとめた「スタンダード」の1年かけの見直しは、目標達成のために妥当な取り組みである。 ・①の取り組みにより、乳児の担当制保育や環境設定がスムーズに実施でき、②の取り組みにより、子どもたちの発達を段階的に捉え支援し、連続性に配慮した保育ができた。同時に、職員の学ぶ機会が増え、保育力向上の意識が高まり、子どもたちによりよい保育が提供でき、「乳児保育を園全体で学び子どもたちの育ちを支えていく、発達にあった環境設定を充実する」という目標が実現できた。 ・どの時期にどのように担当制を活かした保育をするかを検討し継続していくことや園内研修も充実し「スタンダード」を活かした保育を推進することは、成果が上がった今回の取り組みを維持発展させることであり、今後の方向性として妥当で期待したい。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・職員の定着率が高く経験のある職員が支えて育成できる状況で、職員も自ら学ぼうとする姿があり役割を担えてくれると感じ、「意欲のある職員を新クラスリーダーとして抜擢し育成する」を目標として設定した。

【取り組み】

・職員の退職者がほぼなく、主任や乳幼児リーダーがサブとなり、クラスリーダーを支えていく体制を構築した。
・話し合いを繰り返し考えることを1年通して行い、クラスリーダーの育成を行った。

【取り組みの結果】

・新しいクラスリーダーの育成ができた。
・クラスリーダーの育成に向けて話し合いや考えることを年間継続したことにより、「クラスの課題や話し合い、共有する」ことが定着した。
・話し合い、意見を言い合う職場風土が作れたことにより、日常的にコミュニケーションが取れるようになった。
・クラスリーダーに対し、園長、主任、エリアリーダーのサポートの他、外部の講師の研修からの学びにより、保育力の向上に意識が高まり、チーム保育が出来るようになった。

【振り返り・今後の方向性】

・異動により経験の浅い職員がクラスリーダーになる等大きく体制が変わったため、話し合いを強化し、園の運営方針を常に共有していく。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

・目標は、園の方針である「子どもが生まれた時から持つ『育とう』という宝物を安全と信頼に満ちた環境で、愛情をもって支援します」を実現させるために必要で、設定は適切である。

・主任や乳幼児リーダーがサブとなり、クラスリーダーを支えていく体制を構築したことや話し合いを繰り返し考えることを1年通して行い、クラスリーダーの育成を行ったことは、目標達成のための妥当な取り組みである。

・上記取り組みにより、「意欲のある職員を新クラスリーダーとして抜擢し育成する」という目標は達成できた。さらには、クラスリーダーの育成に向けて話し合いや考えることを年間継続したことにより、「クラスの課題や話し合い、共有する」ことが定着し、「話し合い、意見を言い合う職場風土」が醸成され、日常的にコミュニケーションが取れるようになったという副次的効果も生まれたことは評価できる。

・今年度ベテラン職員の異動により経験の浅い職員がクラスリーダーになる等大きく体制が変わったため、話し合いを強化し、園の運営方針を常に共有していく、といった今後の方向性は保育の質の維持に不可欠であり、新体制でも園方針の実現を期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学が要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページやパンフレットを活用した情報発信を、利用希望者に行っている</p> <p>ホームページは、行政で作成したものを毎年見直して修正を行っている。園紹介のホームページでは、外観や乳幼児室の写真を取り込み保育目標や行事・周辺の様子・特色を伝えている。園で作成しているパンフレットは、両面になっており片面に基本理念・保育方針・保育目標や概要・園舎の平面図を記載して、裏面には園の取り組み・顧問医療機関・1日の保育の流れ・春夏秋冬に分けた行事・園舎や屋上・子どもたちのリトミックの様子の写真も記載されているパンフレットを利用希望者に手渡している。</p> <p>行政に園情報を報告し、利用希望者にはパンフレットを配布して園情報を知らせている</p> <p>毎月行政に対し、月初に書類や病児者状況・喫食数など園の情報を報告している。新入園児募集時期に配布される行政の保育アドバイザーの出張期間や場所が記載されているポスターを園に掲示して利用希望者に知らせている。利用希望者や園で行っている地域交流のペンギンルーム・子育て応援券利用の保護者にパンフレットを配布して園情報を知らせている。園長は、多くの利用希望者に園の情報が届くように嘱託医や近隣の行政機関にパンフレットやポスターの掲示依頼することを計画している。</p> <p>見学日程は行政のホームページ内の「区立保育園見学について」で、日程の確認が出来る</p> <p>利用希望者の園見学は、随時受け付けているが次年度の入園申し込みの募集が近づく6月～11月は、来園者が多くなるため行政に日時の報告を行い、行政のホームページ内の「区立保育園見学について」で確認することが出来る。月に2～3回の日程で曜日を交えて1日5組30分程度の時間で園長や主任・エリアリーダーがパンフレットを配付して説明を行っている。利用希望者からは延長保育について・持ち物・作り物・発熱時の対応などの質問が挙がり丁寧に回答している。園長は外国籍保護者に向けてスムーズに対応できる方法を模索している。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園前面談では園の理念・取り組みや留意して欲しいことなど説明して、同意を得ている</p> <p>行政より入園内定の連絡があった保護者に入園に必要な書類一式を取りに来園してもらい、一人ひとりに合わせて入園説明をし面談日を決定している。面談時は保護者とコミュニケーションを取りながら記入してきた書類の確認を行い、保護者の意向なども確認して面談シートに記入している。行政の重要事項説明書を基に、園の理念や取り組み・個人情報保護・災害時対応・第三者委員について等を含めた説明を園長が行い、看護師は健康に関する部分・栄養士は食事の部分と分けて重要事項の説明を行い、同意の上署名捺印をもらっている。</p> <p>こどもの情報を詳細に記録して、こどもや保護者が安心できる環境を整えている</p> <p>面談ではこどもの入園前の状況や家族構成・保護者の就労状況や要望等の情報を詳細に聞き、保護者に確認を取りながら児童票に記入している。面談終了後看護師がまとめ、職員会議で職員の共有を図り一人ひとりに合わせた保育に繋げている。慣れ保育は保護者の意向を聞きながら仕事復帰に合わせて、0歳児は保護者同伴による慣れ保育を行い、1歳児は進級児と新入園児の部屋を分けている。なるべく同じ保育士が関わるようにしてこどもの性格や特徴を把握して、少しずつ時間を延ばしこどもや保護者が安心出来る環境を整えている。</p> <p>クラスの集合写真を入れた「大きくなりました」を転園児に渡し思い出作りを行っている</p> <p>毎年一人ひとりに渡している1年の経過写真や保育士のコメントの入った「おおきくなりました」の中にクラスの全員の集合写真を入れ転園児に手渡し、クラスで簡単なお別れ会を行い思い出作りを行っている。保護者には転園するこどもの事を掲示板や園だよりに掲載して知らせている。また、保護者には入園前面談において「転園に際する区立保育園間個人情報の受け渡しの承諾」を得ており、転園先の園長と児童調査票の引継ぎを行っている。コロナも5類に変わったことから、今後年賀状や行事のお知らせを送り続けた支援を行いたいと園長は考えている。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

こども一人ひとりの情報や保護者のニーズを把握し、保育を行っている
 入園前面談で把握したこどもの心身状況や生活状況・保護者からの要望などの記載がある児童調査票を基に、こども一人ひとりの発達や保護者のニーズに配慮した保育計画を作成して、保育を行っている。朝夕の送迎時の保護者との会話や連絡帳でこどもの様子や情報等を把握し、個人面談を行う際にも保護者に気になることや園への要望などを事前に記入してもらい把握している。個人面談時に質問や要望があれば園長が対応し、こどもや保護者の情報に変更が生じた際には児童票に記録し、クラスで共有を図っている。

園の状況に沿った全体的計画を基に保育計画を作成し、定期的に見直しを行っている
 保育士指針を基に園の状況に沿った全体的計画により、職員で作成したスタンダードを指針とし保護者の意向も踏まえ各クラス担任が年間指導計画や月案・週案等を作成している。0歳児～2歳児には個別の月案を作成し、配慮の必要なこどもには、専門機関と連携を図りながら個別計画の作成している。年間計画は、四半期に分かれ月案は毎月、週案は毎週振り返りを行っている。クラスミーティングは園長と担任で保育士の関わりやこどもの姿から振り返りを行い、次の計画に活かしている。全職員に必要な事項については職員会議で報告して共有を図っている。

こどもの姿や情報を記録して職員会議等にて報告をして、職員間の共有を図っている
 日々、朝夕の送迎時の保護者との会話、個人面談で得たこどもの姿や情報を送迎ボードや申し送りノートに記入し、昼礼や職員会議で報告を行い、会議欠席者は議事録に目を通し確認のサインをし、職員間の共有を図っている。会議は職員会議・リーダー会・4人会(園長、主任、エリアリーダー2名)・乳幼児会・行事担当者会・給食会・クラスのミーティングと多義にわたって行われ、全職員が出席する会議は夕方より行われる職員会議となっている。個別配慮の必要なこどもに対してはリーダー会議で話し合いを行われ各部屋に持ち帰り共有を図っている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>入園前面談にて個人情報保護の説明を行い、同意を得ている</p> <p>入園前面談で重要事項説明書を基に個人情報の取り扱いについて区で定めているプライバシーポリシーの確認を行い、同意を得ている。職員は本社マニュアルの「個人情報の取り扱いについて」に従い、外部と個人情報のやり取りが必要になった際には保護者に意図の説明を行い同意を得ている。個人情報の利用目的には児童調査票・調査票・園だより、クラスだより・連絡帳・健康カード・写真、ビデオがあり、項目ごとの利用目的が細かく記載してあり保護者には、わかりやすいものとなっている。</p> <p>子どもたちにも羞恥心についてを伝え、配慮した保育を心がけている</p> <p>各個室トイレにはドアがついている。乳児クラスのおむつ交換も棚などで囲い、他から見えないようになっている。排せつに失敗した際には子どもの羞恥心への配慮のため廊下に衝立を用意し、他児から見えないようにして子どもの自尊心を傷つけない様に着替えをしている。夏の水遊びやプール遊びでは園庭周辺によしずを張り外部から見えない様にし、着脱はラップタオルの使用や年齢の大きなクラスでは、男女分かれて着替えをしている。子どもたちには「大切な所は見せないようにしましょう」と伝え羞恥心に配慮した保育を心がけている。</p> <p>園長は保育理念に基づき、人権研修を行い保育士の気付きに繋げている</p> <p>虐待マニュアルは、年度当初にクラスごとで読み合わせを行っている。虐待マニュアルの中に虐待早期発見チェックリストや対応フローがあり、気付きに繋げている。また、園の保育理念の「一人ひとりを大切にがあるがままのこどもの育ちを受けいれます」に基づき園長が人権について研修を行い、こどもの権利について学んでいる。保育士は食事場面での対応や「こどもの権利を守る」等、自分たちの保育についての振り返りを行っている。保護者には職員の人権研修開催を知らせ、共にこどもの権利を守る大切さを伝えている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>毎年1回全職員に向けて研修を行い、業務の標準化を図っている</p> <p>入社時に法人独自のハートナーマニュアル・ハートナーブックが各職員に配付され、オリエンテーションを受けている。ハートナーブックは、携帯しやすい大きさとなっており、法人の基本方針や基本理念が、いつでも確認することが出来る。また、事務室には各種フローを入れたまとめや、基本事項・手順のマニュアルが置いてあり、いつでも確認できるようになっている。全職員は、毎年1回は本社研修を受け知識や意識の共有を行い、業務の標準化を図っている。</p> <p>本社顧問による研修を行い、環境の見直しをして保育の向上に繋げている</p> <p>園独自で作成をした保育スタンダードを基本として日々の保育を行っている。毎月の職員会議で確認をして見直しが必要となる際には、リーダー会で話し合い、全体に周知している。園の基本的業務内容や手順のまとめを事務室に備え付けていつでも確認できるようにしている。本社顧問による園内研修を定期的に行い3チームのプロジェクトを作り、保育の検討を行っている。各クラスの環境設定や園庭について学び、子どもにとっての環境をより良いものとしている。日々の子どもの姿を見て四半期ごとに見直しを行い、保育の向上に繋げている。</p> <p>保育参観や行事の後には、保護者アンケートを行い次回実施の改善に繋げている</p> <p>保育参観や行事後には保護者からアンケートをとって振り返りを行い、次回実施の改善に繋げている。保護者会開始時間を13:00としていたが、終了時間が子どもの午睡中と重なり、お迎えのために再度来園しなけりなかつたために14:00開催に変更し、子どもが保護者と一緒に帰宅できるようにしている。また、保育参観日程を各クラス1週間にして保護者が都合をつけやすいよう変更を行う等、保護者に寄り添った対応を心がけるようにしている。なお、行政の指導により子どもの安全のために各部屋に鍵をつける事とした。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>日々の保育活動や連絡帳を通してこどもの姿を把握して、保育に取り組んでいる</p> <p>こどもの姿は入園前面談時に保護者と確認した書類を基に、日々の保育活動を通して把握している。食事の仕方や偏食・寝付けない時の確認・おむつ外し時期等、家庭での様子を連絡帳や朝夕の口頭での会話や個人面談で保護者から情報を得て、一人ひとりに合わせた保育を行っている。0歳児から2歳児は個人の月の計画に記録して、3歳児から5歳児は気になることがあった場合は個別配慮に記入している。これらの事項を毎月のクラスミーティングで担任と園長で共有して検討を行い保育に取り組んでいる。</p> <p>一人ひとりのこどもが主体的に遊びを選択できる環境作りを行っている</p> <p>環境について園内研修を行い、玩具を取り出しやすい位置に設定する等室内環境を配慮した保育を行っている。ままごと・絵本・ブロック、年齢によっては制作物等のコーナーをパーテーションや棚で区切り、個々のこどもが主体的に遊びを選択できる環境作りを行っている。また、コーナーの角に観葉植物を置き、落ち着いた雰囲気遊ぶ工夫も行っている。配慮が必要なこどもも、出来る範囲でみんなと一緒に活動に参加して「今は練習している所だよ」と共に生活をする一員であり、いたわりの心を持ち応援してあげてを知らせている。</p> <p>双方の気持ちを受け止める保育や就学に向けた取り組みを行っている</p> <p>子ども同士のトラブルは双方の気持ちを受け止め、友だちが痛かった事を伝え、相手のこどもには「遊びたかったんだよ」と相手の気持ちに気付く声掛けをし、遊びの制限はせずに気持ちが収まるまで寄り添っている。双方の保護者に園長から止められなかったことを謝罪して、事実を伝えている。就学に向けては職員が保幼小に連携して参加し、小学校の先生と交流を持っている。園では、5歳児に自分の名前や保護者の名前を並べる等積み木を使った文字遊びを行っている。5歳児の午睡は2月の後半からなくす予定をしている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○非該当
評価項目2の講評				
<p>登園時のこどもの様子を口頭で確認して、生活リズムに配慮した保育を行っている</p> <p>登園時には保護者に前日からの様子を口頭で聞き確認して、送迎ボードに記入している。体調の優れなかったこどもや擦り傷などけがをってしまったこどもについては、昼礼で報告し職員間で情報の共有を行い、次の日の朝に保護者に必ず確認をとり体調の変化に気を付けている。0歳児から2歳児が使用している連絡帳にこどもの様子を記入してもらい、園からも記入して伝えている。3歳児以上の保護者とは口頭で確認する。前日に睡眠不足などの場合は、少し早めに食事を取り午睡に誘う等睡眠や食事などの生活リズムに配慮した保育を行っている。</p> <p>基本的な生活習慣の大切さをクラスだよりや、ほけんだよりで知らせ共有を図っている</p> <p>基本的な生活習慣の大切さは、クラスだよりやほけんだよりで保護者に知らせ、共有を図っている。着脱・食事・排せつは個々のこどもの状態に合わせて1歳児中旬から月の個人計画にねらいを入れ、無理なく誘っている。食事は、手づかみ食べを大切に手の動きを見てスプーンの使用などを進めている。園のスタンダードを参考に自我の芽生えの「やりたい」気持ちを大切に「出来る」に繋げている。保護者とは、連絡帳や朝夕の口頭での会話や個人面談で互いに情報を伝えあい、こどもたちの気持ちを大切にすることを進めている。</p> <p>日中のこどもの様子を写真に収め、トピックスと言う形で掲示して保護者に伝えている</p> <p>日中の活動の様子を各クラス写真に収め、お迎え時に合わせてトピックスという形で乳児クラスは玄関に、幼児クラスは玄関外に、写真に担任のコメントを添えて掲示して保護者に伝えている。体調が優れない場合は、部屋の隅で横になることができる小さく区切ってくつろげる場所を用意している。特に朝泣いて登園したり、いつもと様子が変わっていた時などは、昼礼で看護師や栄養士も含めた職員同士連携を図り、多方面の角度から観察をして共有した上で、担任や当番保育士が口頭でその日のこどもの様子を丁寧に保護者に伝えている。</p>				

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>こどもの年齢に合わせたコーナーづくりを行い、主体的に遊べる環境を整えている</p> <p>どの部屋もコーナー別に玩具が置かれており、こどもたちが個々の遊びを楽しむことができる環境になっている。玩具の種類も豊富にあり、少人数での遊びが可能となり、トラブルの勃発を防ぎやすく朝夕の時間を使いじっくりと玩具と関わることが出来る。ブロックなどの作りかけのものは、棚に置くことも可能で遊びの続きも保証されている。3歳児クラスからは朝の会がクラスごとで行われ、季節の歌を歌ったり、その日の天気や出席人数で保育活動内容を知らせ、天候や数への興味を持たせる工夫を取り入れている。</p> <p>職員でプロジェクトチームを作り、こどもの状況に合わせた表現活動を取り入れている</p> <p>制作や音楽リズムの職員によるプロジェクトチームを作り、季節・年齢でこどもに経験させる事を園全体で考え、年間計画を立てている。音楽リズムでは、ピアノに合わせて動く楽しさを知らせている。5歳児ではリズム遊びを継続実施する事により、体幹もしっかりし鉄棒や跳び箱も出来るようになってきている。職員は5歳児クラスのリズム遊びを見てどこを指導していけば良いか検討している。また、季節によってテーマを決め年齢に合わせた制作やコロナで体験が出来なかった感触遊びやボディペインティングを取り入れる等色々な表現活動を経験をしている。</p> <p>こどもが自分で調整できるまで、寄り添って待つことを心がけている</p> <p>生活するうえで必要なルールを知らせ、自分の身を守るために部屋から出ていく時には、必ず大人に伝える事やプール遊びでの危険性など知らせている。集団活動を主体的に関わることが出来るように無理強いせず、こども自らが行おうとする気持ちに寄り添い待つことを心がけている。活動に参加したくないこどもへの対応は、サブ担当の保育士が要所所で声掛けを行い、同じ空間にいる事を心地良いものと思える対応を行っている。こどもの名前を呼び捨てにせず、一人ひとりに声をかけるように大人が言葉を大切に行動することをこどもたちに示している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>普段のこどもの姿を膨らませたものを、行事に取り組んでいる 毎週行われる体操教室で行っていることや、日々読んでいる絵本の中から子どもたちが興味をもったものを演じてみたり、リズム遊びやダンス等普段の姿を膨らませ、年齢にあった取り組みを考慮して、行事に取り組んでいる。日々のリズム遊びで体幹が鍛えられて体操教室での動きも変わり、保育士からの意欲を高める声かけにより、頑張る姿が見られている。利用者調査でも乳児の行事への保護者の参加が無いことへの指摘もあることから、見せるための行事でなく日々の保育を親子で楽しめる行事の取り組みに期待したい。</p> <p>行事に子どもたちの意見を取り入れ、達成感を味わえる取り組みとしている 「もみのき組 お楽しみ会」はグループの友だちとお店づくりのために、何を作り・どんな材料が必要か等を話し合い思いを出し合うことで互いの気持ちに気付き協力して準備している。当日は店員とお客の役を行い、他のクラスも順番に買い物に訪れ、小さな子どもへの労りの気持ちを持ち、友だちと協力して優しく丁寧に年長児としての姿を見せている。また、自分たちが経験したプラネタリウムも「やってみよう」との提案を受け、部屋を暗くして天井に黒い画用紙を貼り光の映る姿を楽しむ等、自分たちで考えた取り組みを行う事で達成感を味わっている。</p> <p>毎月の園だよりやクラスだよりで、保護者へ行事について知らせて協力を依頼している 保護者参加の行事前には、お知らせの配付を行い、再度園だよりやクラスだよりでも参加協力をお願いをしている。運動会の練習予定日には、登園の協力をお願いを掲示している。今年の運動会はコロナ明けということで保護者からの期待も高まる中であったが、子どもたちの普段の様子を見てもらいたいと園の屋上で保護者2名までの参加として、クラスごとの開催となることを伝え参加協力の依頼をしている。後期の保護者会の参加は、各家庭2名の参加だが保護者同士の懇談が持てる時間を持つことを考えている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>ままごとコーナーにはマットを敷き、くつろげる場所を作っている 延長保育は3歳児室で18:15より合同保育を行っている。今年度の定期利用延長保育児は、4・5歳児5名となっている。スポット延長保育は、申し込みを当日の17:00までに電話連絡してもらい対応している。スポット延長保育児の氏名は、事務室で記載したボードを担当職員は確認し把握している。担当保育士は担任から送迎ボードで引継ぎを受け、保護者に知らせている。夕方の疲れも出てくる時間帯となるため、ままごとコーナーにマットを敷き、ゆったりとくつろげるスペースを作っている。</p> <p>担任からの引継ぎを行い、補食の確認をその日の担当職員が行っている 延長担当職員は、シフト制になっており2名で保育を行っている。延長独自の玩具もあり少人数のため、子どもたちとじっくり向き合って遊ぶことが出来る。延長の補食は、18:20から始めている。スポット延長保育でアレルギー食児が入ることもあり、調理室と連携を取り担任・延長番保育士とダブルチェックを行い、アレルギー児専用トレイに乗せ、食札をつけて提供している。日々のこどもの姿を延長保育日誌につけている。また、場合によってはスポット延長保育に0歳児が入ることもあり、人数が増加した際には別室での保育も実施している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>落ち着いて食事を楽しめる雰囲気作りのために、テーブルの上に花を飾っている</p> <p>食事場所は決まっており、いつも同じ場所で食事をしている。体の小さな子には、牛乳パックで出来た足置きや背あてを提供してきちんとした姿勢で食べることが出来るようにしている。乳児クラスは、担当制でいつも決まった保育士と安定した中で食事をしている。幼児クラスでは、テーブルの上に花を置き落ち着いた雰囲気の中会話を楽しみながら食事をしている。食べたい思いを大切にどの年齢も無理強いせず、食事を楽しんでいる。副食は、調理室より皿に盛り付けられ、主食や汁物は、こどもに合わせて担任が盛り付けを行っている。</p> <p>食物アレルギー児や、こどもの健康に配慮した食事を提供している</p> <p>食物アレルギー児への対応は、入園前面談に園長・担任・栄養士・看護師も同席をして聞き取りを行い、担当医師による生活管理指導表で指示を受けた食材を完全除去して個別のトレイに色別の食器と、名前、顔入りの食札をのせ、職員によるダブルチェックを行い、他児と少し離れた場所で誤食のないように提供している。宗教食については、意見書の提出をお願いして面談を行い、食物アレルギー児同様に配膳している。こどもの健康に配慮した食事は、保護者の依頼により園長・看護師・栄養士で相談を行い、可能な範囲で配慮して提供している。</p> <p>栄養士は、年間食育計画を作成して、「保育の中での食育」と位置づけている</p> <p>栄養士の作成した年間食育計画は「保育の中での食育」と位置づけて、各年齢に応じた年間のクラス別食育目標を立て、月間計画に繋げている。給食会議は日々戻ってきた食事を見て喫食状況を把握して、振り返りを行い次に活かしている。各クラスには担当の調理師がおり、担任と相談しながらこどもの状態に応じて毎月のクッキングを行っている。クッキングの様子は、毎月配付される給食だよりに写真を載せ保護者に知らせている。食事の下膳を現在は、保育士が行っているが今後就学に向けて年長児は、テーブルの中央に集めること等を検討している。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>看護師はこどもたちに向けた健康教育を行い、健康や安全の大切さを知らせている</p> <p>看護師は年間保健計画を基に、4月には環境も変わるために保育士と連携を行い、「トイレの使い方」を知らせている。公園など公共の施設では和式トイレを利用しなければならない事もあり、当園の幼児クラス用のトイレ奥にある和式トイレで練習を行っている。6月には「手洗い指導」、7月には「水遊びを安全に行うために」、2月には年長児に向けて「がまんの脳みそ」や「保健室の話」のように就学に向けての話をを行うなど、健康教育を行い、こどもたちに自分の健康や安全に気を付け過ごす事の大切さを知らせている。</p> <p>看護師は毎日各クラスを巡回して、こどもの健康管理を行っている</p> <p>保育士は毎朝こどもの受け取りの際に健康観察を行い送迎ボードに記入している。看護師は毎日、各クラスを巡回して送迎ボードを確認してこどもの状態を把握して健康管理を行っている。こどもが健康を維持できるように嘱託医による定期健康診断が1歳児から5歳児まで年に2回行われ、0歳児は毎月行われている。受診日程はほけんだよりで知らせ、保護者がチェックシートに記入した事項は、看護師が嘱託医に質問し保護者に回答している。また、看護師は毎月身体計測を行い定期健康診断結果も合わせて、健康カードに記入して保護者に知らせている。</p> <p>感染症の発生状況掲示やほけんだより等にて、保護者へ健康に関する情報を提供している</p> <p>感染症の発生状況は、玄関に掲示して病名・病状を知らせている。毎月のほけんだよりでも、前月の園児の病名・感染者数を知らせ対応方法も知らせている。その他、ほけんだよりには免疫について、脱水症への注意や夏風邪等保護者が子育てをするのに必要な情報を記載して養育力の向上を図っている。SIDSについては0歳児室にポスターの掲示を行い、午睡時には、午睡チェック表にて0歳児～2歳児は5分毎に、3歳児以上は30分おきにこどものあおむけ寝を確認して、触診を行い顔色をみる等予防を行っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況に合わせて、当日でも土曜日保育を受けている 入園前面談で保護者の個々の就労状況の把握を行っているが、急な就労により土曜日保育が必要となった場合には、保護者の申し込みにより、当日でも受け付けて対応している。行政による休日保育や年度末保育が必要な保護者に向けてポスターを掲示して必要な保護者には、案内をしている。また、当園は行政の指示により「10月より3か月間の休日保育担当園」となっており、園内で当園の保育士が保育を行うために安心して預ける事が出来る。</p> <p>保護者会にテーマを設けて、みんなが打ち解けやすい場を設けている 保護者会は、年に2回行っている。年度初めの保護者会では各クラスで「おこさんが夢中になっているあそび」とテーマを設けて各保護者に話してもらい、みんなが打ち解けて話しやすい場の提供を行っている。また、4歳児保護者には栄養士が「食事のマナーについて」のお知らせの配付や年間で箸の使い方指導を行い、家庭と共に育んで行くことを伝え保護者の養育力向上を図っている。年長児保護者に向けては、こどもの様子をチェックして就学までに取り組みたい事を伝えている。昨年度の振り返りにより、今年度保護者会開催時間の変更を行っている。</p> <p>保育参観日程を1週間設けて、外部講師が行う日程も取り入れている 保育参観日には外部講師の日も含み、日々交流をすることのない講師のこどもとの触れ合い方も見ることが出来る日程としている。また、日程期間を長くすることで保護者の都合が付きやすいものとしている。保護者に栄養素について関心を持ってもらい、こどもとその日の食事の会話が弾むように三色食品群を玄関に掲示している。また、レシピを玄関に置いたり、毎月の給食だよりで知らせ養育力向上を図っている。毎日のトピックスでは、日々のこどもの姿を写真に撮りメッセージを入れ掲示して知らせ、お迎えの保護者に声をかけ、共有している。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>勤労感謝の日に、図書館や警察・消防署へプレゼントを届けている 今年度は図書館に3歳児、消防署に4歳児・警察署に5歳児が、感謝の意を表しプレゼントを届けている。また、今年度はまれにみる暑さのために散歩に出ることが少なかったが、季節も良くなり出かけやすい季節となり近隣公園へ出かけたり、地域の小規模保育園3園との年長児とドッチボール等の交流を図る計画を立てている。また隣接する「いこいのいえ」との交流も再開することも考え、子どもたちに多様な体験が出来る機会を多く持つことを予定している。園長は自治会とも交流を持ち、緊急の時に相互の助け合いが行えるように考えている。</p> <p>近隣中学生の体験学習に来園したり、地域事業として未就学児が訪れている この夏に近隣の中学生3名が体験学習に来園している。こども達と一緒に遊んだり掃除や作り物の手伝いをしてもらい、中学生には保育士体験を経験する場となっている。地域事業として地域の未就学児に向けた「ペンギンルーム」を年に5回開催して手作り遊具と一緒に作ったり、リトミック・離乳食講習も行っている。外看板に掲示して知らせているが、もっと多くの方に利用してもらうために、他の場所へのポスターの掲示なども考えている。子育て応援券を使い子どもたちの中に加わり保育園の体験をする親子など職員以外の人との交流を楽しんでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	職員は3つのプロジェクトチームで、こどもが豊かに育む遊びの提供を行っている	
内容①	保育士は室内環境作りの研修を受け、1年を4期に分けこどもの姿によりコーナー作りや提供する玩具の入れ替えを行い、こどもが豊かに遊ぶことが出来る環境作りを行っている。また、職員は「わらべ歌」「園庭」「制作」と3つに分かれたプロジェクトチームを作って活動している。園庭チームでは、プランターに季節の花や野菜を植え植物が育ちを見て五感を使って遊んだり、わらべ歌では心を育み、制作チームでは、色々な素材を用意して年齢や季節に応じた提供を行うなど、こどもの心を豊かに育む遊びの提供を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	食育を保育の一環と捉え、こども達に多様な食育活動の経験を提供している	
内容②	食育を保育の一環と捉え栄養士が立てた年間食育計画を基に、2歳児から各クラスで担当調理師と担任で話し合いこどもの姿に沿った実践を行っている。調理室内の見学や器具の使い方の練習・野菜の色形を知る等もあり、こどもたちは多様な経験の食育活動を行っている。また、栄養士は4歳児に正しい箸の持ち方を知らせるために1年間をかけて指導を行っている。年間を通してこどもたちは園庭のプランターに、オクラ、ピーマン、ブロッコリー等の野菜を育て、生育や花の違い・食した時の味の違い等を知り、自然物の不思議さを味わっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル③	確認テストを行うなど様々な手法にて、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる。	
内容③	法人における倫理等の考え方は、職員全員に毎年配付される冊子(ハートナーブランドブック)に記載されている。入社時及び毎年コンプライアンス(法令遵守)や個人情報に関する研修を常勤職員全員が受講している。その結果正しく理解できたかどうかの確認テストも実施している。非常職員にも同じ内容の研修を園内で行い、確認テストも実施している。また、人権擁護のためのセルフチェックリスト(全国保育士会発行)に基づき作成した「職員の姿勢チェック表」にてセルフチェックを每期行い、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	業務継続計画(BCP)を作成することに加え、災害発生時の各職員の行動を定めるなど、災害時に迅速且つ適切に対応できるように努めている
	内容	区所定の様式で、園の業務継続計画(BCP)を作成して周知し職員室へ備え付け常に職員が確認できるようにしていることに加え、地震・火災・水害(台風)の発生に分け、誰が(園長・主任・看護師・栄養士・調理)、何を(園内で、園外で)するかを定め、1枚のフローチャートにまとめて職員室に掲示し、災害時に迅速且つ適切に対応できるようにしている。また、各クラスの部屋の天井にはセーフティゾーン(落下物がなく比較的安全な場所)の表示をし、地震発生時にはその天井の下に子どもを誘導することを徹底するなど、災害発生に備えている。
2	タイトル	職員で作った各年齢に応じた保育のスタンダードに鑑みて、「子ども達にとって」の保育を考えている
	内容	職員は子どもたちにとって生活や遊びを考慮した環境についての園内研修を行い、室内環境を考え子どもに提供をしている。また保育士でプロジェクトチームを立ち上げ、常に「子どもたちにとって」を考えて保育を行っている。園独自の保育スタンダードは、年齢に合わせた遊び・制作・食事・睡眠・着脱・排せつが子どもの姿と保育士の配慮に分かれ細かく記載されている。他に各年齢の心の発達もあり、エピソードがQ&Aになっていて保育に不安や行き詰まりを感じた時に「子どもたちにとって」の振り返りが出来るマニュアル的な存在で日々活用している。
3	タイトル	乳児クラスでは担当制保育を行い、毎日同じ保育士が担当園児との関りの中で愛着関係を築き、心の安定を図った保育を行っている
	内容	乳児クラスでは担当制で保育を行っている。0歳児クラスは子ども3人に対して保育士1人、1・2歳児は子ども5人に対して保育士1人で毎日同じ担当児を受け持ち、食事・排せつ・着脱等生活面の援助を行うことにより愛着関係を築いている。担当制を行う事によって心身の状況に応じたきめ細やかな対応ができ、一人ひとりの性格や行動の把握がさらにできるようになり、子どもの要求がわかり心の安定を図った保育を行っている。遊びに関しては、子どもの高・低月令で分ける等場所や活動によって子ども集団の人数を変えて行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	区の「育児応援券」や子育て支援の「ペンギンルーム」の利用者を増加させ、地域全体の子育て支援にさらに貢献することを期待したい
	内容	看護師や栄養士が常駐していることから見学者等には子育て相談等が好評であるが、コロナ禍で中止していたこともあり、区の「育児応援券」(妊娠中の方及び在宅で3歳までの乳幼児を子育て中の方がする園で親子一緒に遊んだり、育児相談や給食の無料試食の体験をする)や子育て支援の「ペンギンルーム」の利用者が少ない状況にある。HPやチラシの配布等で情報発信を強化することにより利用者を増加させ、地域全体の子育て支援にさらに貢献することを期待したい。
2	タイトル	職員ごとの入職時からの研修計画・実施状況管理を体系的に行い、各職員のスキルアップに繋げることを期待したい
	内容	法人・都・区主催等の外部研修に参加し研修会後職員会議での報告や園内研修によって職員間で共有し、子どもたちの保育活動や日々の取り組みに反映している。また、希望する研修を把握し各職員に合わせて研修を計画、参加しやすいようにシフト等配慮している。ただし、法人及び園では職員ごとの入職後に受講した研修実績の管理がなされていない。担当業務・勤続年数・職位等に応じた必要なスキル取得のための研修計画や受講実績の管理を一貫して行い、「今期は、来期は」といった各職員の研修計画を作成しスキルアップを体系的に繋げるよう期待したい。
3	タイトル	制定されているスキルパスや人事システムの周知をより徹底し、職員が職務を継続する意欲の向上につなげることを期待したい
	内容	法人として、キャリアパスを作成し必要となるスキルの水準を明記し目指したい姿がわかり、職務の継続につながるようにしている。また、個人評価シートを園長・本部で評価し、育成、評価、報酬が連動した人事システムが構築され、職員の意欲向上に取り組んでいる。ただし、「求める人材像に基づく人材の育成や定着化に向けた職員の意欲向上などの園の取り組み」については浸透するには時間を要する。新たに採用された職員が多いことから、さらなる意欲向上のため周知に努められたい。